

来日し結婚、子育てした女性 舞台化

「マハルコ組曲」 物語は春日井発

著書「フィリピンパブ嬢の社会学」が映画化された春日井市の会社員中島弘象さん(35)が、11月28日から12月1日まで名古屋市中川区のささしまスタジオで上演される舞台「マハルコ組曲」の原案を手がけた。映画の前身のような舞台のために中島さんが書き下ろした原案は、学生時代に原点があるといい、春日井で拾い集めたエピソードをちりばめて仕上げた。

(長谷川和華)

中島さんは、市内の中部大め入店したフィリピンパブで大学院でフィリピンについて出会った女性と交際し、結婚専攻する学生時代、研究のために至った。その実体験をつづ



舞台の原案は春日井発と話す中島さん
〓春日井市西本町の木野瀬印刷で

「フィリピンパブ嬢の社会学」中島さん原案 上演来月から

った新書本を出版し、昨年は同書を原作にした同名の映画が公開された。

フィリピンパブ嬢という言葉

葉が先走り、フィリピンから来日した女性たちは偏見のまなざしを向けられたり、親子関係に亀裂が入ったりする家庭もあった。映画公開後、中島さんのもとにはそんな女性

たちから「自分の人生を子どもに伝えられた」など共感の声が寄せられた。映画をきっかけに、親も子も人生やルーツに自信を取り戻していく人

たちを見て、「それならばむしろ僕の話ではなく、あなたたちの話を見せた方がよい」(中島さん)と映画のプロデューサーと舞台化の話がまとまった。

舞台は映画の「エピソードゼロのようなもの」と中島さん。題名の「マハルコ」はタガログ語で「私の愛する人」を意味する。1980年代後半に

来日したフィリピン人女性の視点を中心に、日本で結婚、子育てをする苦悩や喜びを歌やダンスを交えて表現する。

中島さんは大学生時代にゼミ学習の一環で、高蔵寺ニュータウンに住むフィリピン人女性たちの相談に乗っていた。普段は陽気な女性たちだが、親しくなるにつれ、日本

語が読めない、反抗期で意思疎通できない、フィリピン人だからとばかにされているなど、子どもの悩みを打ち明けてきた。こうした約10年間の交流や取材と、バブル期に来日した名古屋市の50代の女性にロングインタビューした内容をもとに原案を書いた。中島さんは「ストーリーは春日井発なんです。点と点を線で結んでできたもの」と表現する。

舞台の主役は映画にも出演し、日本とフィリピンにルーツのあるステファニー・アリアンさん(29)。作・演出は日本人の父と台湾人の母の元に生まれた有田あきさん(37)。有田さんは、「母と娘の衝突や擦れ違いにすごく共感した」と、中島さんの原案に自分自身を重ね合わせたという。ルーツにかかわらず「自分の両親を思うきっかけになれば」と思いを込める。

中島さんは「多くの人に見てほしいですが、特に(舞台の主人公と同世代の)80、90、2000年代に来日して子育てをしてきた人たちに见てもらえたらうれしい。日本で結婚し、子育てをしてきた人生を誇りに思ってくれたら僕は満足です」と話している。